

脱炭素先行地域の取組について

1 脱炭素先行地域について

- 脱炭素先行地域とは、地域の再生可能エネルギーを最大限に活用して、2030年までに民生部門の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロを実現し、運輸部門等その他の温室効果ガス排出削減についても国の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域。
- 令和3(2021)年6月に国・地方脱炭素実現会議で決定された「地域脱炭素ロードマップ」等では、この脱炭素先行地域を全国で少なくとも100カ所選ぶ方針が示されている。
- 選定された「脱炭素先行地域」の取組に対し、「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」(交付率概ね2/3、上限額50億円)が交付される。

2 尼崎市の取組について

尼崎市は、阪神電気鉄道株式会社とともに、環境省が実施した第1回脱炭素先行地域の公募に共同提案で応募し、令和4年4月26日付けでこの提案が選定された。

※第1回脱炭素先行地域募集

令和4年1月25日から2月21日までの期間で実施され、共同提案を含め日本全国の102の地方公共団体から79件の計画提案があり、脱炭素先行地域評価委員会の評価を踏まえ、環境省が26件を脱炭素先行地域として選定した。

(1) タイトル

阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画
～地域課題解決型！官民連携事業～

(2) 取組内容

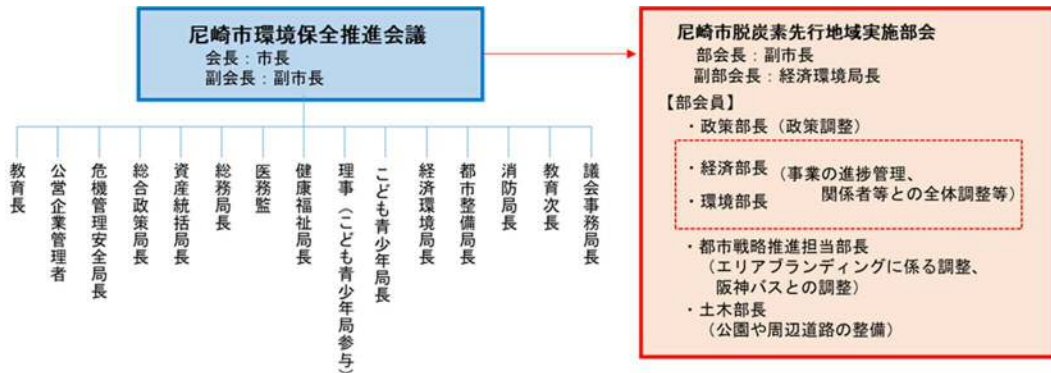
尼崎市南部に位置する阪神電車沿線エリアのうち、阪神タイガースファーム施設(2軍本拠地)等を整備予定の小田南公園のほか、大物公園、大物川緑地、市内の阪神電車の各駅について、徹底した省エネルギー化と再エネ設備の導入、電力の地産地消等の取組により、民生部門(家庭部門及び業務その他部門)の電力消費に伴うCO₂排出を2030年度までに実質ゼロとするもの。※詳細は別紙のとおり



3 先行地域の取組に関する推進、進捗管理等の体制について

(1) 推進体制

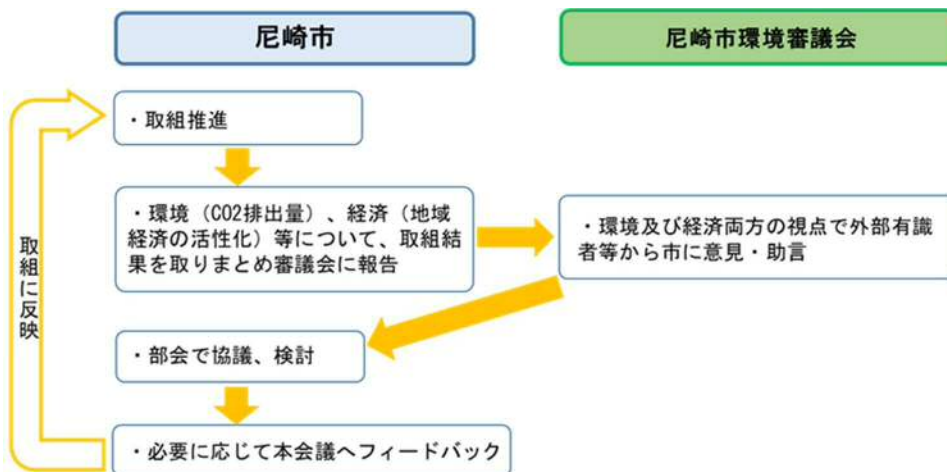
本市の脱炭素先行地域の取組推進については、市長をトップとして設置されている「尼崎市環境保全推進会議」の部会として「尼崎市脱炭素先行地域実施部会」を設置し、当部会において協議検討し、推進していく。



(2) 進捗管理の実施体制・方針

基本的には、(1)に記載する推進体制のもと経済環境局が中心となって取組を進めていくが、①脱炭素先行地域内における脱炭素に関する進捗度合、②地域経済活性化に関する進捗度合、③防災機能向上や地域住民の暮らしの質の向上に関する進捗度合等については、尼崎市環境審議会において、意見や助言を得ながら取組の評価を行い、以降の取組へと活かしていきたいと考えている。

また、取組の最終年度（令和8年度を予定）には、尼崎市環境審議会における意見等を踏まえ、①～③に関する実績、効果等について総括を行うこととする。



以上

尼崎市：阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画～地域課題解決型！官民連携事業～



脱炭素先行地域の対象：小田南公園内タイガース野球場等、大物公園、大物川緑地、阪神電車尼崎駅等

主なエネルギー需要家：公園緑地3か所、小田南公園内の野球場2施設、選手寮兼クラブハウス、室内練習場、鉄道6駅

共同提案者：阪神電気鉄道株式会社

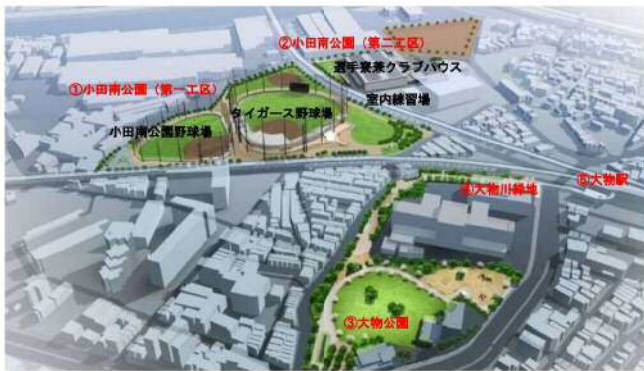
取組の全体像

人口減少が進む市南部大物地域の小田南公園に阪神タイガースファーム施設が移転することにあわせ、同公園内の野球場、練習場等のスポーツ施設に**太陽光・蓄電池**を導入するとともに、**自営線**による同施設間や近隣の大物公園、大物川緑地間の電力融通を行った上、不足する電力をごみ発電の余剰電力を活用し**ゼロカーボンベースボールパーク**を実現する。あわせて、近隣の阪神電車の駅（6駅）を太陽光等により脱炭素化するとともに、EVバスの導入、**ゼロカーボンナイター**の開催等を行い相乗効果を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 各施設において省エネを徹底し、選手寮兼クラブハウスについては**ZEBReady**を目指す。施設の形状等が特殊なタイガース野球場と室内練習場も**ZEBReady(全国初)**を目指す
- ② タイガース野球場及び室内練習場には**太陽光発電(計710kW)**と**蓄電池**を導入し、最大限**自家消費**するとともに、小田南公園内各施設等の自営線区域内に融通
- ③ 自営線区域で不足する電力についてはクリーンセンターの**廃棄物発電の余剰電力**を活用
- ④ 近隣各鉄道駅舎6駅については、**太陽光発電設備(計621kW)**を導入し、自家消費を行いつつ、各駅間で融通し、不足分は再エネ電力を調達

●先行地域（小田南公園等）の整備後完成イメージ ※北から見た図



2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① **ゼロカーボンベースボールパーク**として公園内や試合の中で脱炭素の取組を周知し、**ゼロカーボンナイター**（RE100、バイオマス素材の活用、プラスチックリサイクルの強化）の開催等に取り組む
- ② 鉄道網が発達している東西の移動に比べて交通手段が限定される南北の主要交通手段である**路線バスへのEV(26台)導入**

3. 取組により期待される主な効果

- ① **阪神タイガースファームの試合**だけでなく、試合以外のイベント等に多くの集客が見込まれており、これらの来場者に対して、阪神グループと協力して**駅の脱炭素化**、EVバス・シェアサイクルの導入など来場時の交通の脱炭素化を進めることや、先行地域内で行われる脱炭素の取組（ゼロカーボンナイターの開催、廃棄物発生抑制及びリサイクルの推進など）をPRすること等により、小田南公園を含むエリア全体での**交流人口の増加による経済効果**と脱炭素普及啓発を同時達成

4. 主な取組のスケジュール

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
公園緑地	設計		再整備工事	・ゼロカーボンナイターの開催 ・脱炭素関係のソフト事業の推進	
駅	大物駅の工事(太陽光)	杭瀬駅の工事(太陽光)	尼崎センタープール前駅の工事(太陽光)	武庫川駅の工事(太陽光) 尼崎センタープール前、尼崎駅の工事(LED)	大物、杭瀬、出屋敷駅の工事(LED)
その他				EVバスの導入及び運行	シェアサイクルの導入